

第 10 回 大口町行政経営審議会 議事録

日 時 平成 27 年 2 月 16 日 火曜日 午後 7 時から
 場 所 大口町役場 2 階 第 1 会議室
 出 席 者 岩崎恭典（四日市大学教授）、木野由美子（NPO 法人まちねっと大口）
 加藤正男（タイム技研株式会社）、舟橋里美（商工会）、今尾謙一（愛知銀行）、
 棚村重三（元区長会長）、吉田美晴（社会教育委員）、江端満世志（元議会議員）、
 井上正直（公募による委員）、日比野喜也（公募による委員）、
 井上隆夫（公募による委員）、吉田和江（NPO 法人子どもと文化の森）、
 田村健治（国際交流事業推進委員）

欠 席 者 山田吉昭（株式会社青山製作所）、丹羽昭雄（有限会社宝製作所）
 事 務 局 馬場輝彦（総務部長）、社本寛（政策推進課長）、岩田雄治（政策推進課）
 議 題 (1) 答申（案）について
 (2) 答申
 (3) まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について
 (4) その他

配 布 資 料 資料：第 7 次 大口町総合計画（案）
 資料：答申書
 資料 1：第 1 部 人口ビジョン（案）
 資料 2：第 2 部 総合戦略（案）
 資料 3：若い世代が住みやすいまちに関するアンケート報告書

1. あいさつ

会 長	○本日は、諮問を受けた答申を添えて総合計画案を町長に提出し、総合計画の中から 5 年で行う、まち・ひと・しごと創生総合戦略、人口ビジョンについての議論を行う。その上で、パブリックコメントと議会への説明について委員の方々に了承をいただくことが本日の目標である。総人口について速報値が大口町は 23,279 人であり、まだ増加を続けている。人口の増加が 2 パーセント、世帯数は 7%程増加している。一昔前は世帯が増加するのは核家族であったが、今は単身が多くなっている。社会情勢の変化が起こっており、まちづくりも同様に変化していかなければならない。
-----	--

2. 議題

(1) 答申（案）について

会 長	○まずは、答申（案）について事務局から説明をお願いします。
事 務 局	○答申（案）について説明。
会 長	○質問や意見はありませんか。

	○本文章を答申の正文としてよろしいか。
一 同	○承認。
会 長	○本文章を答申の正文とする。

(2). 答申

会 長	○（会長より町長へ答申書を手渡す） ○ただいま、皆様を代表して町長に答申書をお渡しした。まず総合計画のこ とを中心に町長へ自由にご発言をいただきたい。
委 員	○経営審議会に参加し行政の方の苦勞がよくわかった。敬服し感謝したい。住民 計画を推進して頂く大口町の住民は、ありがたい環境であると感じている。こ れからも住民が裕福に暮らせる大口町であることを期待したい。
委 員	○大口町は人にやさしく住みやすい町であると感じる。安心して子育てをしてい けるまちにこれからもしてほしい。
委 員	○大口町の隅々のことが会議を通じてわかった。役場の方が、まちづくりに尽力 されていることがわかった。
委 員	○私自身、愛知県庁に勤めていたので戦略について計画を産む苦勞はよくわか る。大口町の総合計画は一般の人にも読みやすく、幅広く書かれていると思う。 ただ、計画に基づいてどこまで実施できるか、財政面で不安に感じる部分もあ る。
委 員	○これから高齢化社会になる中で、私もまちづくりに今後も参加していきたい。
委 員	○これからますます住民の力をうまく巻き込んでいき、推進して頂けるように尽 力していただきたい。
会 長	○まちづくりや総合戦略を作成するうえで、住民の知恵を活かして協力して達成 させる指標がなかなか見つからないというのが実情である。委員の方々との議 論を通じて、みなさんがこれからの大口町を作っていく原動力となると感じる。 今後もまちづくりにおいて、町民の皆さんと一緒にやっていけるように尽 力していただきたい。委員の方々、本当にご苦勞様でした。
委 員	○大口町に転勤してきてからあまり時間もたっておらず、まちのことをよく知ら ないまま参加したが、議論を通じて本当に住みやすい町だということがわかつ た。今後もよりよい町になるように尽力していただきたい。
委 員	○個人的には、素晴らしい総合計画ができたと感じている。この計画を指針とし て全ての取り組みを達成しようとする財源的に大変であると感じる。住民と 計画を一緒に取り組みながら進めていくことが大切だと考える。
委 員	○審議会が 10 回も行われると思わなかったが、委員の中で中身の濃い議論がで きとてもよい計画案ができたと感じている。ただ、財政的な問題についてはこ の審議会の中で深く触れられていない。大口町の今の状況は、まちおこしとし て企業誘致しか行われていない。行政のメンバーの入れ替わりの中でこの計画 案の実施体制を維持していくのが大変ではないか。町役場の人員を削減し業務 を外部企業に委託するという傾向があるが、人口がこれから確実に減ることも

	あり依頼しすぎることを考慮する必要があると思う。
委員	○答申の中に具体的な数字で表現している部分もあるが、数字のみにこだわることなく形として表して欲しい部分もある。形として結果が出た方が、町民にとってわかりやすいのではないか。
委員	○審議会の内容が難しい部分もあり、発言がなかなかできなかったことが残念である。私も孫がいるが、大口町は子供たちにとってよい環境であると感じる。
委員	○総合計画として良いものができたと思うが、財源面を危惧している。高齢化が進む中で町が財政的な運営に対して総合計画では深く触れられていない。大口町は自然災害などにおいて立地条件に大きなメリットを持っている。今の時期が様々な事業を新しく行うチャンスであると捉え、町民が快適な暮らしができるように尽力してほしい。
会長	○総合計画は町と町民がやるべき目標を示し、やるべきことが書かれている。大口町は財政面において、福祉など必ず必要な部分の費用は捻出できるという安心感はあるが、大口町は税制改正の影響から5億円の法人町民税がなくなるという大変な部分がある。事業展開において選択と集中という部分は忘れてほしくない。大口の町内の民間に事業を任すということも今後大切であると感じる。
町長	○委員の皆様からのご意見を頂戴して改めて感じていることは、これからも大口町に住んでよかったと思えるようにあってほしいということであり、そのようなまちづくりを進めていかなければならない。大口町は普通交付税の不交付団体である。岩崎会長がおっしゃられたように、法人町民税の影響もあるが、大口町として町の税収入で堅実に運営していくことが大切であると考えている。私の任期中に住宅団地を増やすというといった政策は打ち出していないが、2030年まで予測されている人口の自然増にしっかりと対応を行い、町民が安心して暮らせるように取り組んでいきたい。私を含め役場の職員は計画を実行するために役所にいる。今後、第8次総合計画ができるまでに、町長としてできることはすべてやっていきたいと考えている。総合計画を策定された委員の皆様は、他の町民の方々にぜひ情報を発信していただければと思う。委員の皆様に今一度御礼を申し上げるとともに、今後とも町政にぜひお力添えをいただきたい。
会長	○答申案については以上です。皆様ありがとうございました。

(3). まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)について

会長	○つづいて、今後のスケジュールも合わせて事務局から説明を願います。
事務局	○今後総合計画の誤字などの修正について、ご了承願います。内容について変更することはない。 ○資料1、資料2について説明。
会長	○総合戦略について何か質問や意見はありますか。
委員	○数値目標やKPIの達成度は、国からの補助金の支給に影響するのか。総合戦略

	で議論する際に、国は KPI の達成率が高いところからするのか。達成が難しいものよりも目標達成可能なものを優先すべきではないか。
事務局	○総合戦略に基づいて先行交付金、加速化交付金などの補助金は数値目標が達成されているかどうかは問われていない。しかし、国からは事業への指標を設けて数値で問えるようにと指示を受けている。事業の数値目標が達成できているかが補助金の交付判断になるわけではないため、目標を数値化することが難しい部分がある。
会長	○国からは事業の検証が可能にすることを指示されており、目標達成できない場合に補助金の返還が求められているわけではない。
事務局	○数値指標においては、資料 2 において国もすでに計画を見直している。市町村に対しても KPI の分析の設定の仕方は、毎年測ることができる数字になっている。毎年評価した結果、戦略も含め見直すことはある。補助金との関係は、KPI も含め多少は補助金を利用した後に評価しなければいけないものとする。
会長	○KPI については、国よりもこの審議会でも評価すべきことではないか。交付金のために別の指標を設定することや、進捗管理の目安として使うこともある。
事務局	○12 月 7 日の会議以降 資料 1 31 ページにおいて、総合計画の人口推計ではシミュレーション 2 を使用し、総合戦略の人口ビジョンにおいては、シミュレーション 4 を使用している。これは出生死亡の設定が異なっており、2030 年に合計特殊出生率が 1.80 に上昇させることが設定に加わっているためである。1.80 という数字は希望出生率であり、この数字に近づけて数値を設定したことがこの差を生んでいる。大口町では総合戦略において、希望出生率を上げる必要があるという認識で策定している。他の市町村の多くは、シミュレーション 5 が使われている。これは、2040 年に出生率が 2.07 という数値で設定されているが、大口町の場合人口の増加率が現実とかけ離れていることもあり、シミュレーション 4 が使われている。
会長	○多くの自治体で用いられる出生率 1.80、2.07 という数値では、大口町では人口予測として上がりすぎてしまうということが言える。
委員	○総合戦略の※表記は外してもよいのではないか。
委員	○資料 2 20 ページ 中学生職場体験学習について、この代わりに創業支援セミナーに絡めて KPI の指標にしてはどうか。
会長	○中学生の職場体験学習を人口ビジョンから考えると、地域でこれからも暮らしてほしいという観点から、受け入れ事業所があることは好ましいことと言えるのではないか。実際に創業した人という数字を示せば良いとは思いますが、目標値を示せるかという問題もある。創業されたという実績を示す場合に、目標値を設定することが難しいと言える。
事務局	○開催数では KPI にはならないため、開催した結果が創業数に結びつくことが難しい部分がある。
委員	○毎年見直しはできるのか。

事務局	○毎年見直しは可能である。
会長	○来週から始まるパブリックコメントでも皆様には、再度ご意見いただくことも可能である。
委員	○進捗管理はどのように行うのか。1年という期間ではなく、四半期で見なければ単年度での達成という観点でしっかりと把握できないのではないかと。
事務局	○基本的には年単位で見直しとなる。
会長	○PDCA サイクルは行政の場合、年間の予算で動いており年間単位で見ることが通例となっている。 ○来週からパブリックコメントにかけていただき、3月中に県を通じて国に提出する形になる。
事務局	○土木事業など大口町の場合、地下水の問題もあり夏に行えない。また年間を通じて同じ業務を行うということは少ないということもあり、年間を通じて管理するという体制をとっている。
会長	○3月23日までパブリックコメントを行い、3月31日までに策定し県を通じ、国に提出するという事となる。

(4). その他

会長	○他に何かご意見ありますか。
事務局	○今後検証を行う際にぜひ、この会議の中で今後もお願いしたいと思っている。またお力添え願いたい。
会長	○行政経営審議会は様々な役割がある。
事務局	○特別職の報酬の諮問機関でもあり、改訂がある際はこの行政審議会の承認が必要となる。
会長	○審議会の役割をまた確認し、皆さんには今後また見直しの際にもぜひご協力をお願いしたい。
事務局	○訂正のポイントは35ページの理想的な子どもの差についてのグラフを修正した。
委員	○3月末で退職する関係もあり、今後については事務局と相談したい。
事務局	○また個別で今後については、対応させていただきたい。
会長	○これで終了する。皆様本当にありがとうございました。

以上